

記念物／史跡

21 いしがいこうさくおうじゆぞう ひ 石谷広策翁寿蔵碑

中村庄屋石谷十次兵衛の次男広二は文政元(1818)年中村(能美町中町)に生まれ、天保13(1842)年24歳の時上京、本因坊丈策の弟子となり、相弟子に後の本因坊秀策(因島市出身)がいた。二段となって中村に帰り碁打ちの生活を送り、高名を謳われた。

明治33(1900)年『敲玉余韻』(秀策の打碁集)を著し、碁を打つ者の必読の本として高く評価されている。明治39(1906)年87歳で没す。



有形文化財／美術工芸品

22 しんらんしょうにん お え でん 親鸞聖人御絵伝

寛政元(1789)年6月5日、仏護寺(現広島別院)より納められたもの。

正しくは、「大谷山本願寺親鸞上人御絵伝」(箱書きから)

徳正寺で保管されている。

親鸞上人が生まれてから亡くなるまでの一生涯の様子が描かれている。



有形文化財／美術工芸品

23 せきせんそうえい しょう 石泉僧叡の書

石泉僧叡は、宝暦12(1762)年安芸国戸河内村真教寺に生まれ、長じて京都西本願寺の学歴豊かな徳の高い学僧となった。

文化元(1804)年43歳の頃から、その卓越した学識をもって主として安芸国一円に、教行信証の講義をして回り、文政5(1822)年徳正寺で講義をした時、漢詩を書いたものである。



有形文化財／美術工芸品

24 もくぞう あ み だ によらいりゅうぞう 木造阿弥陀如来立像

現存する阿弥陀如来像は、神亀(724～729)創建の八幡神社に祀られていたという。文禄4(1595)年僧長雲が、浄土真宗に改宗、山号を擁護山徳正寺と改め、周辺に点在していた禅宗道場を合併して開基したと伝えられている。



有形文化財／建造物

25 下田屋敷の雁木

ここは下田家が江戸時代に廻船問屋を営み、荷の積み下ろしの雁木跡と言われ、能美島の昔の海岸線を知るうえで、貴重な石組みである。下田屋敷には明治7(1874)年能美島最初の郵便局が開局、明治38(1905)年鈴木三重吉が病氣療養のため滞在、ここから沖の小島を眺めて作品「千鳥」を完成している。



記念物／史跡

26 鈴木三重吉「千鳥」文学碑

明治38(1905)年8月、鈴木三重吉は東京帝大1年の時、心の愁いをいやすため来村し、廻船問屋下田家に滞在。女主人などの人情にふれ、次第に病がよくなり、島での体験をまとめた稿を夏目漱石に送り、漱石の推奨を得て、処女作『千鳥』が完成、一躍文壇に登場した。旧下田家屋敷跡に立つ碑の「親のそばでは泣くにも泣けぬ沖の小島へいって泣く」は、能美島滞在中の三重吉の心境を友人に書き送った手紙の一節。



民俗文化財／無形民俗文化財

27 八幡神社祭礼神楽

祭神は、応神天皇・神功皇后ほか7柱神で、「神社明細帳」によると「神亀(724~729)神託により一字建立 豊前国宇佐八幡宮より別祀す」とある。



西能美島旧5か村の惣氏神で、毎年9月の祭礼には数千人の参拝者があり、島最大の行事である。永禄2(1559)年毛利元就が巖島神社を改修したとき、大鳥居の東の柱は中村の八幡神社の森から供出し、その代償として神輿2丁を拝領している。〔大願寺文書〕より

有形文化財／美術工芸品

市指定文化財(H26.3.17指定)

非公開

28 國郡志御用二付下志らべ書出し帖(控)
佐伯郡鹿川村

佐伯郡鹿川村が文政2(1819)年広島藩に提出した「國郡志御編集用下志らべ書出し帖」の控である。文化8(1811)年から始められた広島藩の地誌(藝藩通志)編纂に当たり領内各村に「村名の由来、山川の形勢、動植物等」をまとめた書類で一般的に「書出帳」と言われ、藩内の各村の書出帳をまとめて文政5(1822)年に「藝藩通志」ができています。



有形文化財／美術工芸品

非公開

※ 佐伯郡西能美島村御建山
御留山野山腰林御改帳

江戸時代広島藩の直轄林野は「留山」と呼ばれていたが、寛永8(1631)年に藩用に供する良木の育成が可能なる場所が指定され、そこでは樹種を問わず伐採は禁じられた。但し、許可を得て税を払えば、下刈りができた「御建山」と「御留山」の二種にした。

この簿冊は「御留山」・「御建山」の指定した山の管理状況をまとめた簿冊。



有形文化財／美術工芸品 非公開

※ かのかわむらじづめちよう 鹿川村地詰帳…寛永15年

※ なかむらじづめちよう 中村地詰帳…寛永15年

※ たかたむらじづめちよう 高田村地詰帳…寛永15年



鹿川村地詰帳



中村地詰帳



高田村地詰帳

地詰帳とは一般的には検地と同じで、各村々の土地を一筆毎に所有者・畝数(面積)・田・畠・屋敷及び水利・土質・陽の当たり具合などの現地調査を行い、上・中・下と分け、さらにそれを三段階に分けて村の畝数及び村高をまとめた簿冊。

記念物／史跡

29 ぐんかんとねせんぼつしゃいれいひおよぐんかんとねしりょうかん 軍艦利根戦没者慰霊碑及び軍艦利根資料館

軍艦「利根」は太平洋戦争中、常に機動部隊の先頭に立って大活躍、レイテ沖海戦後呉に帰還。昭和20(1945)年3月19日の呉空襲の後、洋上砲台として中町沖に停泊、米軍機による7月24日の空襲後28日着底。この戦いで、戦死者128名、住民死者17名の犠牲が出た。

昭和40(1965)年、能美町住民の有志により慰霊碑を建立、毎年7月25日に法要を行い、昭和62(1987)年艦内から引き揚げられた品々などを展示した軍艦利根資料館が開設された。



記念物／史跡

30 おたてやまひょうしき 御建山標識

江戸時代に広島藩が藩の材料、用材の確保や治山・治水の目的で、農民の入山、伐木を禁じた山を御建山という。

御建山標識は、御建山と入会山(農民が入ってもよい)との境界に建てられた標識で、坪崎山のオタテヤマ(御建山)では、第4番、第5番が現存している。この他、能美町内の御建山は中町大後寺迫山、高田岩風呂山、鹿川大矢藤浦山、中町飛渡瀬堺落走山などが存在していた。



軍艦利根資料館

※資料館の見学についてはX(エックス)よりお問い合わせください。(公開不定期)
@tone_museum



有形文化財／建造物

31 復元「南蛮樋」碑

江戸時代に入って全国的に干拓工事が行われ、鹿川村でも寛文11(1671)年頃から、現在の鹿川小学校あたりから沖に向かって干拓工事が行われ、永田川と才越川の交わる「古樋橋」のすぐ下流にこの樋門は設置されていたが河川改修工事により撤去、平成16(2004)年10月大矢防災緑地に復元したものである。満潮時の海水流入を防ぐために遮蔽板を上下させて開閉させるもので、大型化でき「南蛮樋」と呼ばれた。



有形文化財／美術工芸品

32 薬師如来像

勝善寺が、もと佐伯町玖島(廿日市市)にあって、慈恩寺という禅寺であった頃からのものである。この寺は佐伯町にある時、永正3(1506)年真宗に改宗し、寛永6(1629)年勝善寺と寺号を改めた。明治12(1879)年鹿川村へ移転してきた時、佐伯町から持ってきたのが、この薬師如来像である。



記念物／天然記念物

県指定文化財(S25.3.22指定)

33 鹿川のソテツ

ソテツでは広島県内有数の巨樹である。胸高幹囲約6m、樹高約5mあり、本樹は根元から大小の6支幹に分かれ、周囲の3支幹は他のほとんど倍長に達し、また各支幹には無数の珠芽が発生して奇観を呈している。



有形文化財／建造物

34 將軍社

昔(1680年頃)棟という家の人が、田に水を引くため井戸を掘っていたところ、武人の姿をした人形が出てきた。これは、子どもの遊び道具によいということで家に持ち帰ったところ、その夜枕元に現れ「我は天大將軍なるものであるから、祀ってほしい、もし我を祀ってくれたなら年に三軒以上の家は焼かぬ」と言ったので、これはありがたいこととして、これを祀っている。



記念物／史跡

35 港湾改築記念碑

こうわんかいちくきねんひ

高田には大正期には土地柄数多くの機帆船きはんせんがいたが港湾がなく、村民救済のため、国の事業として港湾改築事業に着手、昭和8(1933)年に完成。切石による石積み防波堤で、当時としては大規模な事業で、港湾のそばに光源寺第14代住職一念氏の書による記念碑がその苦節を今に伝えている。



有形文化財／建造物

36 岩風呂神社

いわぶろじんじや

中村八幡神社の座持ちに、元亀元(1570)年祭りの夜、白髪びやくの老翁らうじゆんが榊かきの枝を持って夢枕ゆめまくらに立ち「我は大山祇神おほやまきなり、社を建てて祀まつってくれるなら長く山野を守るであろう」と告げた。夢さめてみると枕元に榊かきがあった。これは正夢に違いないと村人に相談し、直ちに社を造営して祀まつった。



民俗文化財／無形民俗文化財

37 宮島管絃祭御供御用船

みやじまかんげんさい おとも ごようせん

元禄14(1701)年管絃船団が巖島の対岸地御前より帰途、荒天に遭い、御座船があわや水船にならんとした時、能美の十三郎と新助の乗る舟が、必死の奮闘により御神体等を守り、入水を免れ無事本社に帰還することができた。この功により御用船が免許され、以降御供御用船として今日まで続いている。その後、新助の子孫である中村の住人から高田の二人へ御用船の権利が譲られた。爾来高田が能美町高田御用船保存会として御用船の奉仕を現在まで続けている。



記念物／史跡

38 瀬越憲作先生像

せごえけんさくせんせいぞう

瀬越憲作は明治22(1889)年5月22日、高田村において瀬越住太郎の次男として生まれ、その年が憲法発布の年から「憲作」と命名。5歳のときに祖父理兵衛から碁を習い、33(1900)年広島県立第一中学校に入学後、囲碁に磨きがかかり、二、三段の人とは互角に戦えるようになり、41(1908)年父の親友望月圭介(後に逋信・内務大臣)のすすめで第14世因坊秀和の内弟子になる。42(1909)年鈴木為治郎三段との試験碁に4勝2敗で勝ち、飛付三段を許され、大正10(1921)年六段になると鈴木為治郎と、神聖会を創設、囲碁対局に時間制を採用、13(1924)年、日本棋院の創立に参画。世界に囲碁を広めるを理想とし、中国に3回も渡航、呉清源の来日に協力、戦後日本棋院の理事長となり、棋院の再建に尽力する。昭和30(1955)年名誉九段、のち紫綬褒章、勲2等瑞宝章など受賞し、47(1972)年7月、83歳で逝去した。



光源寺 ☎0823-45-2422

※見学を希望される場合は、事前に連絡ください

有形文化財／美術工芸品

39 本尊阿弥陀如来立像

文治元(1185)年平氏の一族伊地宗顕が、一門の菩提のため、草庵を結び禅門道場とし、光泉寺と称した。のちに天正13(1585)年僧善了が開基。その後、寛文元(1661)年僧受玄が真宗に帰依改宗し、海谷山光源寺となる。

藝藩通志に「光源寺、高田村にあり、天正13(1585)年乙酉、僧善了開基」とある。その光源寺の本尊阿弥陀如来立像は、大仏師康堯の作で、元禄6(1693)年2月10日、善西という人によって寄進されたものである。



有形文化財／美術工芸品

40 蓮如上人直筆名号

本願寺第八代蓮如上人(1415~1499)ご真筆の六字名号「南無阿弥陀仏」である。これは、江戸期に現本尊 阿弥陀如来像の入寺までのご本尊であったと伝えられている。

光源寺で保管されている。



有形文化財／美術工芸品

41 喚鐘 (光源寺)

本堂軒下にある喚鐘は、直径40cm、高さ70cmで作者不明だが、元禄11(1698)年に市良右衛門が寄進したと彫られている。



有形文化財／建造物

42 光源寺の築山

天正13(1585)年僧善了が開基。その後、寛文元(1661)年僧受玄が真宗に帰依改宗し、海谷山光源寺としたといわれている。

光源寺本堂裏の築山は江戸時代に築かれたもので、四季折々姿を変えながら現在に至っている。

心静かに山に向かうとはるか昔の風情が感じられる。



有形文化財／建造物

43 学制による小学校「日新舎」教室跡

明治5(1872)年に「学事奨励に関する被仰出書」に基づき「学制」が布達され、高田村では、明治7(1874)年に光源寺本堂に小学校「日新舎」を開校。その後、光源寺本堂の南側に校舎を付設、その教室跡の「午前第八時昇校、午後第三時降校之事」の墨蹟が、往時を今に伝えている。



部屋の天井に
看板がまだ
残っている